

金沢（香林坊）支店の譲渡完了に寄せて

3月16日、香林坊にある2代目・日銀金沢支店の金沢市への譲渡手続きが完了しました。1954年に2代目を竣工して71年以上が経過しています。2年半程前には3代目支店を駅西に構え、引き続き地域経済を支える役割を頂いておりますが、今後、香林坊の旧支店に自由に入れなくなると思うと一抹の寂しさも感じます。

振り返りますと、香林坊時代も、38豪雪や56豪雪など自然災害に悩まされました。あの建物の金庫から必要な現金を必死に供給した記録が残っています。近隣のホテルや映画館で火災が発生した際には、被害を広げてはならぬと、自らを「日銀自衛消防隊」と称して火消しに協力しました。街の美化活動も盛んで、香林坊支店の庭には様々な花や木が植えられ、職員やお客様を癒しました。2008年には



大川 真一郎

理事 日本銀行金沢支店長

金沢青年会議所の「緑のカーテン制作プロジェクト」のメイン会場にもなりました。

金融経済面では、バブル景気とその崩壊、リーマンショックとコロナ禍といった時代のうねりの中で、金沢経済ひいては石川・北陸経済が麻痺しないよう、日夜金融機能を維持すべく対応に努めました。金融教育面でも様々な取り組みを行い、多くの親子連れやグループが香林坊の支店見学に来てくれました。

こう書いて来ると、なんだかかそつのない働き場所だったかのように聞こえますが、そこは人が集まる場所。香林坊で長年働いた職員からは、もつと人間味ある声が聞こえてきます。例えばこんな感じですよ。「香林坊バス停の乗降時のアナウンス、学生の笑い声、百万石行列の華やかな歓声など、街の賑わいが心地良かった」「営業場の壁面は大理石で出来ていて、化石が入っていて美術品のようなだった」「真鍮のドアノブはピカピカ、床もゴミ一つ落ちておらず、お客様から褒められてうれしかった」「調理師免許を持つ職員が作ってくれた昼食では、茶碗蒸しやコロッケ、寄せ鍋等が絶品だった」「毎年、新入行員が記念植樹をしていて、自分の年に植えた植物が育つのを楽しみにしていた」「裏庭には池もあり金魚が泳いでいて癒された」「帰り

がてら、目の前の大和で買い物が出来て便利だった」。

もちろん、ほろ苦い思い出も聞こえてきます。「難点は、エアコンの効きが悪かったこと。夏は暑く冬は寒く、うちわや扇風機、ヒーターやひざ掛けが必須だった」「外国人旅行者の方が、頻繁に、美術館あるいは両替が出来る場所と間違えて入ってきたので対応が大変だった」「車庫が狭かったので、車をぶつけないかヒヤヒヤした」「支店前のバス停利用者に迷惑がかからぬよう、飲み屋帰りの方の吐物等を翌早朝に掃除するのが大変だった」「裏庭のカラスの巣を除去したら、その後カラスに顔を覚えられ頻繁に攻撃された」「ご神木のタブノキは、近隣の敷地にも葉や種を落とすので、近所に迷惑がかり申し訳なかった」などです。

いずれにせよ、2代目支店は、私たちにあって、多くの思い出が詰まった建物・敷地です。今後は、金沢市が市民の皆様等とともに、金沢の未来を拓く活用を検討されていくと伺っています。私たちも大いに期待しています。あわせて、私どもは、香林坊は離れましたが、これからも金沢や石川県ひいては北陸のために全力を尽くす所存です。皆様の引き続きのご支援・ご鞭撻を、どうぞ宜しくお願い申し上げます。